



平成24年度通常総会を終えて

長崎県技術士会 会長 山口和登

6月2日諫早市のホテルセンリュウにて、平成24年度通常総会を開催し44名の会員出席のもと無事終了しました。その後宮崎大学の秋吉名誉教授を講師に招いてCPD研修会を開催し、引き続き交流会を開催し盛会に終わることができました。今回は例年金曜日開催を土曜日開催に変更しましたが、例年より10名ほどの参加者増となりました。ご協力ありがとうございました。

総会の議事内容・結果は参加会員各位については重複となりますが、当日の総会に不参加の会員各位を考慮して総会の状況をご報告申し上げます。なお議案内容についてはメールにて周知済みでありますので、ここでは議案の詳細については省略いたします。

1. 総会議案

・第1号議案：平成23年度事業報告

原案の通り承認

23年度の主な実績は、①役員会の定例開催 ②技術士1次、2次試験支援関係 ③研修会、西日本技術士研究・業績発表年次大会の長崎開催 ④機関紙の年4回発刊、会員名簿23年度版の作成(200部)会員及び関係機関に配布 ⑤会員の増強(17名の新入会員) ⑥その他鹿児島県技術士会との意見交換会の開催、東日本大震災に対する義援金10万円寄託等です。

・第2号議案：平成23年度収支決算、会計監査報告

原案通り承認

・第3号議案：平成24年度事業計画(案)

原案通り承認

24年度の主な計画は、①役員会の定例開催 ②技術士試験支援関係 ③研修会の開催 ④機関紙の継続発刊、会員名簿の昨年より100部多い300部作成配布 ⑤他技術機関との連携 ⑥県技術士会の活性化、積極的な会員募集、増員等です。

・第4号議案：平成24年度収支予算(案)

原案通り承認

基金の用途が明確でないため、一般会計への編入が意見として提案されました。この為、今年度はこの方向で執行することを提案し、承認されました。

・第5号議案：長崎県技術士会会則改定(案) 慶弔規定(案) 会長選挙要領(案)

会則改定及び慶弔規定の案は原案通り承認され、会長選挙要領に関しては第4条に補則案が提案され、その方向で承認されました。なお、改定制定後の会則、慶弔規定、会長選挙要領については長崎県技術士会のホームページ及び平成24年度版会員名簿に掲載され

ていますのでご参照ください。

・第6号議案：長崎県技術士会役員変更(案) 原案通り承認

今年度は役員改選の年度ではありませんでしたが、理事のうち小松理事から交代の提案があり、清水正明氏の理事就任を提案し承認されました。小松和彦氏には長年理事を務めていただき感謝申し上げます。なお、変更後の役員構成は長崎県技術士会のホームページ及び会員名簿に掲載していますのでご参照ください。

・報告事項：大橋理事(九州本部長崎地区代表幹事)より報告

・公益法人日本技術士会九州本部平成24年度年次大会の内容報告

・公益法人日本技術士会よりの表彰の報告

会長表彰：山口和登氏…地区活動に対する貢献

久原俊之氏…水産部会での活動に対する貢献

九州本部長表彰：桐原敏氏…地域の広報活動等に対する貢献

・会員の叙勲報告

犬束前会長(現顧問)が平成24年度春の叙勲を受賞(瑞宝小綬章)されました。

・公益法人化に伴う地区の支部結成について

大橋理事より内容、問題点、長崎県技術士会との関連等について報告があり、今後他県の動向も見ながら協議する必要があるとの報告がありました。

2. CPD研修会

演題：ため池余水吐放水路構造への新しい試み

一水の流れから見たものの考え方

講師：宮崎大学名誉教授 秋吉 康弘先生

*詳細は毎熊副会長が報告

3. 交流会

研修会終了後、ホテル内の別室で交流会を開催しました。新入会員7名、秋吉先生を含む42名が参加し、新入会員の自己紹介や会員相互の情報交換など楽しい交流会となりました。

最後になりましたが、6月27日、東京の経団連会館で開催されました公益社団法人 日本技術士会の第54回定時総会に参加してまいりました。議事の内容は技術士試験受験者の減少報告、そして1次試験の合格率の低下とその対策などでした。また、現在検討中の平成25年度からの試験制度の変更や地域における県支部などの組織作りについて討議が行われました。

総会終了後、名誉会員推挙状授与及び会長表彰式が行われました。私も九州本部推薦で会長表彰を受けました。これは長崎県技術士会の会員各位のご協力・ご支援の賜

物と感謝しております。また、長崎県技術士会の会員で理事の久原俊之様も水産部会の推薦で会長表彰を受けられました。長崎県技術士会から同時に2名の表彰者が出たことは大変意義あることだと感じております。

今後とも長崎県技術士会の発展に努力していく所存でございますので、会員各位の御協力・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

平成24年度長崎県技術士会、研修会報告

副会長 (株)高崎総合コンサルタント
每熊 元 (農業、総合技術監理)

去る6月2日(土)午後、平成24年度の長崎県技術士会通常総会が開催され、小雨日よりでしたが、例年よりも多い、44名の皆様の参加を頂き、盛況の内に無事終えることが出来ました。日頃の会の運営、当日の総会共々、会員の皆様のご協力に感謝致します。

つきましては、総会終了後、自己研鑽の一環としてCPD対象の研修会を開催致しましたので、その状況をご報告させていただきます。

今回の講師は、宮崎大学名誉教授の秋吉康弘先生にお願いしました。先生の略歴を紹介させていただきますと宮崎大学農学部の農業土木系を昭和41年に卒業され、東京教育大学大学院農学研究科修士課程を修了後、富山県立大谷技術短期大学助手、講師として4年勤務され、その後昭和47年から母校である宮崎大学農学部農業工学科へ赴任されることになり、現在に至っております。農学博士の学位は昭和60年に九州大学より取得されています。

また、大学在任中のテーマは、水工学を中心に、学生への指導、研究を行ってきておられます。

講演内容については、秋吉先生が独自に研究開発された水の減勢工の一種である「らせん流水路」の室内実験状況や、施工例、を通じてその効果等を講演して頂きました。

以下、内容を概略説明します。

演題は「ため池余水吐放水路構造への新しい試み」で、水の水路急流部や屈曲部における跳水による洗堀防止工法への新しい工法を研究開発されたと理解しました。

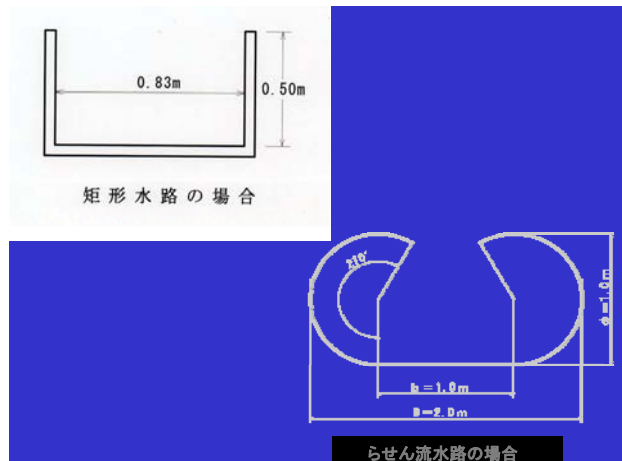
研究に対する先生の考え方は

- ・独自性(アイデア)とは原点に戻り基礎から考えること
 - ・固定観念を無くすこと=マニュアルの概念を無くす
 - ・自然の力を利用する(水は水で、土は土で制御)
 - ・多目的に総合的に考える!
 - ・地域の特徴を把握し、住民の身になって考える
 - ・屋上から卵を落としても割れない工夫を(厚紙1枚で)
 - ・夢・目的を持つ、常にロマンを!
- とのことでした。

従来の急な流れに対応した施工例

- ・水路底に自然石を敷き並べ、粗度を高め流速を減勢する
- ・水路底に階段工を施工し、流速を減勢する
- ・ポリエステル製のマット内にモルタルを圧入して急勾配水路や水路底全面に敷き並べ粗度を高めると同時に法面の保護を行う
- ・急傾斜水路では、高耐圧ポリエチレン管やコルゲートパイプ等が使用される場合がある。

下図は矩形水路とらせん流水路の比較図



らせん流水路の効果

- ①水は形を持たない(未定系で器の形状を呈する)
- ②今までの矩形の水路の側壁を円弧状にし、流水をらせん流でスムーズに流す
- ③側壁に衝突して溢水する上向きのエネルギーを回転エネルギーのらせん流に変換
- ④矩形水路で制御可能な流量の約2.5倍の流量を制御可能
- ⑤開水路であるためゴミの除去が容易
- ⑥工事費が40%~50%の軽減が可能
- ⑦環境・景観に優しい技術構造で違和感が無い

らせん水路施工状況1



らせん水路の施工状況2



流水状況1



流水状況2



研修会風景



実施事例

- ①宮崎県 宮崎市北の迫ため池余水吐
- ②農水省 都城市木乃川ダム用水路
- ③福岡県 甘木市深堀ため池余水吐
- ④山口県 長門市平原ため池余水吐
- ⑤沖縄県 名護氏満川ため池余水吐
- ⑥宮崎市 平野ため池余水吐
- ⑦長崎県 小値賀町野崎島集水路
- ⑧宮崎県 高城町用水路

等

らせん流水路の応用

- ・ため池余水吐放水路の構造
- ・承水路と集水路との合流部
- ・ほ場整備排水路の合流部
- ・林道等の側溝
- ・高速道路等の法面集水路
等への応用が考えられる

その他にも、秋吉先生が得意とされる溪流取水工や最近、新しい分野として、エコ対策としての農業用水路を活用した承水力発電等のゴミ対策なども、話題として講演頂いた。

1時間20分程度でありましたが、他部門の方からも多くの質問を頂き、有意義な講演であったと感じています。

公益法人日本技術士会関係事項について

長崎地区代表幹事 大橋義美

平素は、技術士会の活動に対しご協力いただき感謝申し上げます。

ところで、6月開催の「平成24年度長崎県技術士会総会」においてご報告いたしました、支部組織の結成等についての会議が6月23日九州本部において開催されましたのでご報告いたします。

1：現在、公益法人日本技術士会の県支部結成へ向け具体的に取り組んでいるのは、大分県です。平成25年4月結成を目標としています。

2：他の県は、現在のところ具体的な取り組みは行っていないが、今後、本部の意向を聞き検討するとのことです。

3：甲斐九州本部長は、平成25年9月までに各県の支部発足を望まれています。

4：県支部は、日本技術士会会員で入会希望者のみの組織として結成可能とのことです。

このため、前もって対象者に対してアンケート（大分県で実施）を取り、会員の意向を調査しておくことも良案と考えます。

5：支部発足の場合は、会員の30%以上の同意により発議し九州本部の承認を得る必要があります。

6：支部発足後は、役員、事務局、会計、活動報告等について、日本技術士会の規則に準拠した組織活動が必要となります。その他、支部の組織、運営等については、アンケート実施時に報告いたします。

7：支部が発足すれば、現在の「長崎県技術士会」と「公益法人日本技術士会九州本部長崎支部」の二本立ての会ができることになります。

但し、活動は両会が連携し実質的には「長崎県技術士会」が担うものと考えます。

このため、一部の役員は両方の会を兼任する必要が考えられます。

8：以上の状況を踏まえ、長崎地区としての今後の進め方は下記の案（九州本部案）を基に、長崎県技術士会とも相談して行きたいと考えます。

1）本年度中に会員の皆様にアンケートをとり、支部結成に対する意向調査を行う。

2）結成の意向が出れば、その結果により発足に対する発議の方針を決める。

3）発議の場合は、平成24年度中（25年3月）に申請し、平成25年度に認可受ける。

本案は、決定したものではありませんが、実施の場合は会員皆様のご協力を宜しくお願いいたします。

長崎県技術士会に入会して

園田直志（建設部門）

はじめまして、この度長崎県技術士会に入会させていただきましたものです。日本技術士会には、平成19年秋頃大阪勤務中に入会しましたが、その後三重県に移動しながらも技術士としては月刊誌を読む程度でした。H23年1月から、九州本部のCPDに参加しております。職業柄、土木学会のCPDへの参加が多かったのが実情です。

私は、22歳で長崎を離れておりますが、住所は長崎市に置いたまま殆ど単身で転勤してきました。定年を機に、初めて九州地区でシニアとして勤務して2年が過ぎようとしています。よって、未だ技術士としては長崎の地に到着していません。

当会に入会するきっかけは、ホームページの閲覧です。H23年11月のHPで、棚橋先生の急逝を知りびっくりしました。私の専門がトンネルですので、棚橋先生の論文には土木学会HPなどで時々接することもあり、退職後、長崎に落ち着いたなら母校の門を叩き、一度ゆっくりお会いしたいなと思っていました。本当に残念でなりません。

さて、自己紹介といっても何ら語るほどのものもありませんが、企業内でもつばら現場勤務が大半です。土木工種も様々です。東京本社技術部時代は、トンネル業界の各種委員会、技術開発業務を経て台湾新幹線のトンネル工事など様々な体験をしてきました。

トンネルエンジニアとして最近のトンネル大事故に鑑み、同様の事故が35年程前に3年間で5件も発生しました。その当時、先輩トンネル技術者達から耳の痛くなるほどトンネル現場の安全や技術について教育されたことを思い出しました。「災いは忘れたころにやって来る」じゃありませんが、経験工学から進化した土木技術やトンネル技術について、まずは自分の体験から語って、これからのCivil Engineersの育成に貢献できればよいかなと思っています。

現在は、大分県の東九州道のトンネル現場に勤務しておりますが、各地の現場に1~2年ほど勤めるとそれぞれの生活や地方文化に接することができます。ここ宇佐市は、あの名横綱「双葉山」の生誕地です。去年は生誕100周年記念事業があり、平成の大横綱白鳳関が宇佐神宮で土俵入りを奉納しました。古来より、日本のトンネルの坑口の上には「笠木・化粧木」と言う神木を飾り、トンネル工場の安全を祈願する風習があります。相撲もトンネル技術も安全・安心を祈願するご神事に由来するのは、科学技術だけでは説明できない「人々のこころ」を現わしているものかもしれません。

土木技術は、Civil Engineeringと表記されるのは既知ですが、微力ながら市民の安全・安心のため、土木技術を分かりやすく伝えていくことに土木技術者としての役割があるのではないかと考えている今日この頃です。会員の皆様どうぞよろしくお願いたします。



「宇佐総合運動公園の双葉山銅像」



「安全祈願式前夜のトンネル坑口」

技術士試験への挑戦

尾崎 泰 (尾崎泰建築設計事務所: 建設部門)

1. 受験の動機

私は、コンクリート構造物の劣化要因であるひび割れについて、どうすれば低減できるかを勉強したいと考えていた。下水処理場建設工事の設計監理をする機会を得た。発注者側の担当技師が技術士(上下水道部門)の方で、「建設部門に『鋼構造及びコンクリート』があるが挑戦してみないか」と言われ、仕事しながら勉強できるいいチャンスと考え挑戦してみようと思った。早速、本屋で問題集を立ち読みして愕然とした。設問の意味すらろくに理解できない。こんな難しい試験は絶対無理だとすぐ諦めてしまった。

長男の大学受験となり、毎日遅くまで頑張る息子を励ますつもりで「お父さんも、技術士目指して受験勉強するゾ〜」と宣言し、平日は1.5~2.0時間、土・日は10時間を目標に、私の受験勉強が始まった。ところが、3日も続かなかった。私の一次試験(1回目)挑戦は散々な結果だった。翌年は、受験せず、敵前逃亡したことのモヤモヤを払拭できず、やっと3年目に奮起して再挑戦を試み、合格することができた。

2. 二次試験への取り組み

建築系である私には、指導をお願いできる技術士が身近に居なかった。しかし、幸運にも技術士お二人が自社で指導されている勉強会に、部外者でありながら参加の許可を頂いた。有難いこのチャンスに感謝しながら、月1回の勉強会には休まず出席した。事前に想定問題の論文を指導技術士にメールして添削をお願いし、勉強会でそれらの論文を持ち寄り、細かい指導を具体的に受けた。また、他の受講生の論文講評も聞くことができたことは、想定論文をつくる上で非常に参考になった。

選択問題は、コンクリート工学会に入会し会報誌やJASS5、コンクリート標準示方書等を中心に毎日少しずつ読み込んだ。

3. 技術士受験から得たこと

技術士試験に取り組むようになって、書類は簡潔な文章を心掛け、主語・述語を明確にして、数値も適度に入れて読み手に分かりやすく作成するよう注意した。

設計監理業務を通して、現場ではコンクリート分科会を立ち上げ定例化し、ゼネコン担当者やプラント会社のコンクリート技士などの参加もお願いした。私は、現場で想定される課題に対し、みんなが納得できる解決策を得るまで幾度も話し合いを重ね、毎回最新のデータや事例などできるだけ多くの資料を準備した。その後、これらの資料は、体験論文を作成する際大変役立った。

4. 今後の目標

コンクリート構造物は、社会資本を形成する主要な要素として膨大なストック量となり、国民生活に欠くことのできない存在となっている。建築分野において

もストックされたビルや構造物の老朽化が社会問題になりつつある。

私は、「鋼構造及びコンクリート」の技術士として既存コンクリート構造物の適切な長寿命化を図るため、更に維持管理技術の開発に励むとともに、新設コンクリート構造物の耐久性向上を目差し、微力ながら、社会に貢献したいと考えている。

私は、何人かの既得技術士に何回も論文添削をお願いし、口頭試験の模擬試験もして頂いた。立派な師に巡り会い、熱心に指導して頂いた。感謝の気持ちでいっぱいである。

今後は、私が、技術士を目指す方の少しでもお役に立てたらと考えている。

機関紙発行担当者より

会員の皆様のご協力により盛会にて総会・研修会・交流会を終えることができました。今年は初めて土曜日の開催でしたが、例年にも増して多くの会員の皆様にご出席いただき、ありがとうございました。

昨年度は特に近年の課題でもあった会員数増強についても会員の皆様の粘り強い勧誘のご努力により極めて大きな成果を得ることができました。引き続きご協力宜しくお願いいたします。また当会の運営や活性化のためのご意見等ございましたらメール・電話等で是非お寄せ下さい。

なお当機関誌や日本技術士会九州支部発行の「技術士だより・九州」の投稿依頼等についても引続き皆様のご協力をお願いいたします。

大栄開発(株) 桐原 敏

〒857-1151 佐世保市日宇町 2690 番地

TEL : 0956-31-9358、FAX:0956-32-2711

E-mail : s.kirihara@daieikaihatsu.co.jp